

令和7年10月31日

琴浦町長 福本 まり子 様

令和7年度未利用財産有効活用に係るトライアル事業 実施報告書

団体名：特定非営利活動法人

カウベル文化振興会

代表者：理事長 四門 隆

令和7年度未利用財産有効活用に係るトライアル事業について、下記のとおり報告します。

記

1. 団体概要

団体名	特定非営利活動法人 カウベル文化振興会
代表者名	理事長 四門 隆
所在地	〒(689-2301) 東伯郡琴浦町八橋 106
連絡先	TEL:090-1011-8055 FAX:無し E-mail: cow-01@mx1.tcbnet.ne.jp
成立年月日	平成17年10月13日
目的及び事業	別添定款に記載の通り

2. 事業概要

(1) 対象施設 (所在地)
旧カウベルホール (琴浦町大字鋤 474 番地)
(2) 施設の活用範囲
土地及びホールを除く建物並びに中庭、駐車場

(3) 実施期間
令和7年4月1日から令和8年3月31日まで
(4) 事業目的
閉館した旧カウベルホールの施設のうちの、ホール部分を除くその他のスペースを、地域コミュニティを創出するという新しい目的で再稼働させ、琴浦町のにぎわいを日常的に創り続けるための施設として有効活用します。
(5) 事業内容
事前予約での利用という従来型の施設利用に加え、手続きなしで自由に足を運ぶことのできる施設としての形態を加えます。さらに、カフェやショップの出店ができる形態、イベントや公演等、多様な利用形態を実現するとともに運営手法にワークショップを取り入れるなど対話的で開かれた施設として利用者相互の交流を喚起し「日常的なにぎわい」を創出します。

3. 事業の実施報告

(1) 事業の実施状況			
① 主催イベントの開催実績			
イベント名称	開催日時	参加者数 (人)	主な内容
カウベルのスタートラインを引くワークショップ	6月1日	36	・カウベルタウンの運営計画の説明と意見交換 ・施設愛称の決定
カウベル開館40周年記念&再会祝祭コンサート	6月14日	210	10組の出演者によるコンサートの開催
はじまりのマルシェ	7月12日	603	初めてのマルシェ、各室や中庭を使ってキャンドルナイトを演出
Min-nano ミュージックフェス 2025 in カウベルタウン	8月30日	431	元劇団四季所属の汰生喜さんの指導によりミュージカル風のコーラスを演出、総勢14組の出演
カウベルフリマ	9月 13, 14, 15日	120	定期開催のフリーマーケット第1回目

第10回カンガルーのポケットコンサート	10月5日	101	0歳児からの子どもを対象としたファミリーコンサート
カウベルタウンの日常的なにぎわいをつくるワークショップ	10月19日	33	お試し事業を振り返りカウベルタウンの明日を話し合うワークショップ
カウベル毎月マーケット	10月26日	58	定期開催のフリーマーケット第一回

② トライアル事業期間中のカウベルタウン来場者数(フロントスタッフが来場者をカウント)

R7年月	来場者数(人)	施設利用件数(件)			月別割合(%)	備考
		一般利用	フリー利用	合計		
7月	1,217	27	31	58	25.9	
8月	1,252	38	31	69	26.6	
9月	690	35	30	65	14.7	
10月	1,542	55	31	86	32.8	
合計	4,701	155	123	278	100.0	

※一般利用は利用者の申込みによる利用、フリー利用は誰でも自由に使えるスペースの開設

③ カウベルタウン来場者の属性(本人申告によるカウント R7年9月の来場者数)

参加者の年代	町内来場者(人)	町外来場者(人)	合計(人)	年代別割合(%)
10代未満	47	33	80	13.8
10代~20代	58	38	96	16.6
30代~40代	145	76	221	38.1
50代~60代	83	47	130	22.4
70代以上	41	12	53	9.1
合計	374	206	580	100.0

④ カウベルタウン来場者の属性(本人申告によるカウント R7 年 10 月の来場者数)

参加者の年代	町内来場者 (人)	町外来場者 (人)	合 計(人)	年代別割合(%)
10代未満	168	109	277	22.4
10代~20代	214	67	281	22.7
30代~40代	241	89	330	26.6
50代~60代	175	50	225	18.1
70代以上	113	13	126	10.2
合 計	911	328	1,239	100.0

⑤ 一般利用の目的別利用実績(ス7年7月~10月)

利用内容	町内利用 者数(件)	町外利用 者数(件)	合計 (件)	目的別割 合(%)	備 考
集会・ワークショップ	11	3	14	9.0	まちネット、きこりん 他
公演・演奏練習	24	6	30	19.3	わかば、音楽希 他
イベント	6	0	6	3.9	まちおも、気球 他
各種教室	27	1	28	18.1	ヨガ、ボードゲーム他
ショップ	49	17	66	42.6	コーヒー屋、子供服屋他
作品展	6	0	6	3.9	絵手紙展、子供作品展他
見学・視察・立ち寄り	5	0	5	3.2	こども園 小学校まちた んけん 他
合 計	128	27	155	100.0	

⑥ カウベルタウンの来場者の動き

7月と8月は夏休みでもあり自由に遊べるコーナーを新設するなど相応の来場を見込んでいました。またカウベルタウンのために卓球台やラケットなど地域の方々からの寄贈もありました。

9月は隣接する梨選果場が最盛期を迎えて混雑するためイベント開催を控えました。

10月は想定以上の来場者がありました。まさにカウベルタウンの利用が世代・地域を問わず徐々に広がりを見せていることは明確です。

⑦ 効果及びニーズに関する見解

施設利用者並びにイベント参加者の年代は30～40代が多い傾向にあり、若い世代の動きが活発でした。また、それに伴う同伴の来場として10歳未満を含めた10代も多い傾向がありました。

幼児／

保護者に連れられての来場がほとんどであり、保護者への聞き取りによると「楽しく遊べる安心安全な場所が身近に出来て嬉しい」という声が多く、次に「雨の日に遊びに行く場所が欲しかった」との声が多く聞かれました。和室の遊具で遊ぶ親子連れが予想以上に多く、一度来た方のリピート率も高いことから、このようなニーズを満たすような安心して子どもを遊ばせられる環境が少なかったことが推察されます。

小学生、中学生、高校生／

平日の放課後に毎日のように通ってくる学生たちの目的は様々で、施設で用意しているバスケット、卓球、ボードゲーム、など賑やかに仲間と過ごしたり、読書や自習など静かに過ごしたり、週末にはカフェで友達と楽しむ姿も多く見られました。夏休み中は毎日通う受験生も含めてセミナールームで自習をするなど、2時間以上の滞在も多く見られたことから、コワーキングスペース（自習と仕事の部屋）の潜在的なニーズがうかがえます。

東伯中学校内でのイベント「チャチャチャ」内において、どんな町だったら嬉しいかという設問に対して最も多かった意見が「イオンがある町」であったことから、子供たちは刺激や喜びを求めていることがうかがえます。商業的なイオンと全く同じものを提供することは難しいですが、それらによってもたらされる刺激や喜びへの若者のニーズを受け止める場所として、多様な企画と多様な出店が誰でもできる仕組みを持つ現在の取り組みが今後必要とされると考えます。

20代／

20代の利用が最も少なく、大学や就職などの理由で人口としても少ないことが考えられます。

30、40代／

利用する年代としては最も多い結果でした。子育て世代は、子どもと一緒に来場されるケースが多く、子どもを遊ばせる場所を必要としており、家庭と学校以外にも日常的に安心して子どもを送り出せる場所が欲しいという声を毎日のように聞きました。親子一緒に過ごしても、子どもが卓球やカードゲームをする側で母親同士がお茶を飲みながら長時間交流するなど、それぞれの目的をそれぞれに果たせることが好評で、1つの施設でカフェや工作室など多数の機能が同時に提供できることもカウベルタウンの利点であることを確認しました。年代的に公私ともに多忙な反面、生活面での充実感も求める年代でもあるため、子育てだけではなく自分自身の喜びのためにカウベルタウ

ンの情報に関心をもって足を運んだと推察されます。野菜購入のニーズも高く、週に何度も野菜を買いに来られる女性が多くおられました。

50、60、70代以上

広報が SNS 中心であるために、情報が行き届きにくい世代であるも関わらず、「今日はどんなことをやっているの？」と日常的に足を運ぶ人の姿が多く見られます。傾向として最も多い利用は、音楽発表の観覧、音楽の練習であり、ステージと楽器があることでの音楽のニーズは高いものがありました。次いで多いニーズとしては、アート表現です。例えば、絵手紙を書き続けた女性が自身の80歳の区切りに、初の作品展を開催して多くの方が訪問しました。自身の取り組みに改めて向き合うなど80歳を迎えてなお成長されていく姿が印象的な利用もありました。

表現をしたい人と見たい人の両方のニーズが確認できました。その上で多かったのが「カフェがあつて嬉しい。おしゃべりができる場所ができて嬉しい。」という意見で、人とのコミュニケーションが気軽できる場所に対するニーズがうかがえます。

音楽関係者のニーズが高い

音楽ホールから続く熱量がこの町に根強く存在しているためか、ホールが使えなくなった今も、過去にホールによって音楽に関わって育った人々からの発表と活動の場を求める声は非常に多く、ロビーのステージでイベント時以外にも音楽が鳴り響き、セッションが日常的に生まれています。音楽ホールを知らない層であるにも関わらず、地元の小中学生から元劇団四季のアーティストまで、幅広い年代とジャンルの表現者たちが現在のカウベルに表現の場所を求めてやってきます。それだけの魅力を持つ建物であることは無視できないポイントです。

ピアノやドラムをステージで気軽に使用できる施設は他には無く、音楽体験の日常的な機会がある町であることは町のPRのひとつにもなり得ます。音楽のコミュニケーションは世界共通であり、人をつなぎ交流人口を増やすことのできる活性化ツールになると考えます。音楽と関わることに敷居が低い町という強みは、他の市町村のPRとの差別化に活用できると考えます。

事業者が利用を希望する声が多い

顧客新規開拓の目的のほか、「施設に魅力を感じる」「SNSで見てまちおもに共感」という動機が多く聞かれ、リピートで利用する町内外の事業者が多くありました。ビジネスチャンスを得られる場所が町内にも新しくできるかもしれないという期待感があることと、加えて注目すべきは、「自分の町が活性化するための力になりたい」という思いを持つ人が多いことが確認できたことでした。そういった力を有効活用する場所が今まで無かったという発見がありました。利用者には、日替わりで様々な店と出会える嬉しさを提供することができました。

町内外の飲食店、整体、体験教室、ハンドメイド作家などの事業者が日常的に出店できることで、出展者にも利用者にも嬉しい効果が得られました。

その他／

野菜無人直売所では、野菜を買いたい、売りたいといったニーズは高く、トピアにあった直売所の閉店で、需要が宙に浮いていたと考えられます。

また、古本交換図書館という本を通じたコミュニケーションシステムが好評で、本をあげたい、もらいたい人も双方のニーズが高く、常に新たな本が入っては貰われていき、また入ってきます。老若男女多くの方が利用し、琴浦町に本屋が無くなっても、持ち寄った本が人から人へと次々と循環していく仕組みは、琴浦町に優しい人が多いと感じさせてくれる機会となっています。

《参考》カウベルタウンに息吹きを

令和7年4月の様子



原野化した芝スペース(中庭)



放置されたキウイ



令和7年7月の様子



遊具で遊ぶ子ども達(和室)



卓球台、工作室、ブックコーナー(ロビー)

主催イベントの様子



カウベルのスタートラインを引く
ワークショップ(R7. 6. 1)



カウベル開館 40 周年記念
&再会祝祭コンサート(R7. 6. 14)



はじまりのマルシェ(R7. 7. 12)



Min-nano ミュージックフェス 2025
in カウベルタウン(R7. 8. 30)



第 10 回カンガルーのポケットコンサート
(R7. 10. 5)



カウベルタウンの日常的なにぎわいをつくるワークショップ(R7. 10. 19)

(2) 運営体制に関する状況

令和元年に、旧カウベルホールの存続を願って署名された町民 5,263 人の多くの思いをつなげるためには旧来の施設運営スタイルではなく、今の時代を反映したモデル的な施設運営を目指すことで一致し、多くの同志がつながり多様な価値観と発想が組織内に生まれました。

そして当法人は、今年度トライアル事業を受託し施設運営をするにあたり、従前から多くの町民の意見に耳を傾け、その要望を反映してカウベルタウンのプランを練ってきました。施設運営を継続して取り組むために、次の通り当法人の組織力の強化に取り組んできました。

① 組織体制の拡充強化

当法人の会員数は、今年度は新たに 21 の新規加入会員があり 9 月末現在 82 の会員より構成するなど組織力を強化し施設の運営体制を整えてきました。

また、カウベルタウンづくりのための経済的支援として地元の企業・団体にカウベルタウンづくりに賛同していただくなど協力の輪は広がりつつあります。人と財源と創造力がカウベルタウンの成長のための資源として集中させ有効に活用しています。

② カウベルタウンを支えるボランティア

前項の会員とは別に、カウベルタウンの日々の施設運営のため多くのボランティアが日々現場で対応しています、その原動力はカウベルタウンに足を運ぶ様々な人たちがそれぞれに有意義な時間を過ごす事のできる魅力的な拠点になると信じているからです。

③ すべての世代が足を運ぶカウベルタウン

トライアル事業を開始して以降、若い世代の来場が目立ちます。来場者のうち 6 割から 7 割は町内であり、全町域からの来場があることを確認しています。また、町外の利用者も 3 割から 4 割 (7 月～9 月で延べ 1,000 人前後) と多く、関係人口創出に貢献しました。開催されるイベントの内容により利用者の年齢層は異なりますが、トライアル事業開始前の子どもや若年世代の来場が少ないかもしれないという懸念は払拭されました。

施設を利用するため足を運ばれる方に地域的・年代的な極端な偏りはなく、また施設の再稼働に納得し、おおむね満足して頂いていると考えます。今後は、カウベルタウンをもっと知って頂き、多くの町民の皆様に来て頂くためにさらに工夫を重ねます。

④ 町民の意見を聞く機会を大切に

トライアル事業による施設利用について意見や要望をお聞きするため、ワークショップ形式により数回にわたり集う機会を設け様々な意見や要望を聞かせていただきました。

まず、昨年 11 月 3 日はお試しによる再稼働を考えるワークショップを開催し、続いて今年の

6月1日にトライアル事業の開始前に利用者や地域住民に施設運営計画を説明し、意見や要望を収集する機会を設けました。施設愛称の「カウベルタウン」もこの日の参加者が決定しました。

10月19日はトライアル事業について施設を利用した者や来場者からの意見や要望を収集するワークショップを開催し、当法人の取り組んだトライアル事業の評価と共にカウベルタウンそのものの運営の意義について意見を聞くことができました。

カウベルタウンの必要性を強く感じていることとカウベルタウンをこれからも使いたい、ぜひ運営を継続してほしいという意見が多くを占めました。

(3) 今後の活動計画及び収支計画

① 今後の活動計画

カウベルタウンを令和8年度も継続利用させたい、そのためにも今年度のトライアル事業において施設利用の需要動向を把握するとともに、トライアル事業での施設利用者や来場者の意見や要望の整理と評価・考察し今後の運営計画に反映させます。

イ. 新規事業として常設のカフェやコワーキングスペース、シェアオフィスの必要性

これまでに多くの方々から意見や要望に耳を傾け、収集された意見や要望を整理し当法人としての基本方針としたのは次のような事項です。

若い世代のみならず、高齢者にとってもWi-Fi環境は重要な時代となっているのに関わらず、琴浦町には十分な環境が極めて少ないことは課題でした。自宅にしかWi-Fi環境が無いと自宅でしか過ごさないため、町が交流の機会を促進したいとしてもWi-Fiの無い場所には交流のチャンスは増えません。町内外のビジネスにおいても、打合せなどの機会においてパソコンを使用することから自営業者であればジョイフルがよく利用されます。しかし、ジョイフルは気軽に集まれて飲食もできますが、それ以外にはカウベルのように多様なコンテンツは無く、クローズドの会議も行う場所はありません。コワーキングスペースが無いということは、町外からビジネスが絡んでくる余地が少ないことを意味します。

若い世代であれば、SNS発信や動画配信を日常的に行いますが、それにはしっかりと安定性の高いWi-Fi環境が必須となります。そういった需要を満たす施設にすることで、ビジネスチャンスと交流の促進を目指します。

・若者や移住者等が自身の目標を定め、その実現のために懸命に取り組んでいますが支援や情報を得る機会を得ることができず孤立無援の状態で前に進めないケースもあります、そんな状況を改善するための一つとしてシェアオフィスやコワーキングスペースは極めて有益だと

思われます。

なお、新規事業として計画しているコワーキングスペースやシェアオフィスについては、マーケティング精度を高めるため、公益財団法人とっとり県民活動活性化センターの事業認定をいただき、専門のプロボノワーカーにより事業の妥当性について評価(令和8年1月頃)をいただくこととしています。

- ・人を動員するための最も簡単で効果的な方法は飲食であることから、安定的な来館の動機作りとして、飲食の提供は不可欠と考えます。隼ラボ、キナル南部がその成功例です。

琴浦東 IC より南側に飲食店が1店舗も無く、飲食ができる場所がないことも地域幸福度と自己町肯定感の低さに影響を与える要因となっています。飲食店は、人と人が交流し様々なアクションが広がるきっかけになることから、気軽に足を運べる施設作りの一丁目一番地です。

ロ. 多様な利用者を柔軟に受け入れられる施設を

カフェを開けば人が集まり易いことはトライアルにおいて確認できています、またコワーキングスペースやシェアオフィスについてもさらなる需要動向の把握をするとともに、ロビーの小さな舞台ではあるものの発表の場ができたと目を輝かせている児童・生徒がいます。今後そうした子どもたちが成長するための機会の確保とともに、小さな子どもを安心して遊ばせられるスペースや子どもたちの体験や自習する場所、さらに読書・工作・中庭・テラス・ロビーのギャラリーなどについてトライアル事業での評価を行いつつ多様な利用者の需要に対応しさらに使いやすい施設に成長させます。

② 収支計画

別紙のとおり

(4) 本町が抱える課題との関連性

① 新しい形態の公共施設として

トライアル事業により琴浦町に足りていないと確信したのは、町民がいつでも気軽に足を運ぶことのできる敷居の低い施設です。

一般的に公共施設の運営は、規定に基づき利用許可申請し許可された者が集まる場、あるいは町が募集したイベントに参加申し込みをした者が集まる場であり、特定多数の町民を対象する場合には受益者が固定化するケースも多々あります。

そのような特定多数の人たち以外にも圧倒的多数の町民がいますが、そのような町民にとって既存施設は敷居が高く、且つ縁遠いと感じています。

何も手続きはしていないけど、【①とりあえずカウベルタウンに行ってみよう→②ずいぶん楽しい時間が過ごせた→③また行ってみよう】このような流れが、今カウベルタウンのトライアル事業で起きている事象です。

「休館日が無いって本当?」「いつ行ってもいいんだ」「それはいいね」が来場者の感想です。

施設を利用したい人たちへの規制や管理ばかりでなく、町民自身が日々の繰り返しの中で自身の思うように施設を日常的に利用し、ささやかな思いが満たされること(例えば卓球で汗を流すこと、カフェで談笑することなど)が、琴浦町ににぎわいをつくる最初の一步となると私たちは考えます。

私たちは、このトライアル稼働中に確認できた町民ニーズに対して、しっかりとカウベルタウンのような仕組みを施設として提供したいと考えています。そして、今はあまり必要性を感じていない町民にも「無くてはならない」と言われるような価値ある施設づくりを進めます。

② 文化芸術活動の拠点として

6年前に旧カウベルホールの施設利用は打ち切られました。その時の琴浦町には多くの文化団体があり、合唱や芸能など多彩で広範な活動がなされていましたが、発表の場を失ったことで文化活動から身を引く方が多く現れました。また子どもたちの文化活動への参加も停滞しました。それは目標とする舞台もなく、活動に魅力を感じなくなってしまったからです。

カウベルタウンのロビーにあるステージでは、規模は小さいながら発表の場としてやりがいを感じている子どもたちがいます。人にとって発表の機会と場は、欠かすことのできない成長の礎です。

③ 有休財産の有効活用

旧カウベルホールを使わないのはもったいないという町民の意見は多くあります。私たちは「未利用財産の有効活用に係るサウンディング市場調査」による提案で、遊休施設の有効利用のプランにおいて、町からの施設運営補助金を求めています、基本は自主財源で運営する事としています。

むしろ、大きな解体経費が見込まれる中でまったく施設を使わないとしてもランニングコストが生じています。閉鎖された施設に経費を投じていることももったいないと言わざるを得ません。

私たちはこの二つのもったいないに取り組み、遊休施設を有効に活用することで町に日常的なにぎわいをつくらうとしています。民間主導による自主運営を基本として取り組むため、行政の

過大な負担は生じません。

カウベルタウンで子どもたちの目が輝き始めます。子どもの成長は琴浦町の活性化のための大きな財産になります。琴浦町は自己実現が可能な町だと子どもたちが考え始め、壮年世代のUターンが始まり、新規参入者が移り住んできます。カウベルタウンは大きな可能性を持っている施設と信じて使い続けることが肝要です。この建物を使いきれないことこそ琴浦町の悲劇の始まりです。

④ 新たに生まれる地域コミュニティ

よく顔の見える人や意見を発する人がいますが、実際には声も顔も出さない多くの人たちが琴浦町で暮らしています。そして例え目標や展望があったとしても有効な機会も場もなく、前に進もうとする決心もつきません。しかし気軽に足を運べるカウベルタウンではまだ細やかですがその現実を変えようという兆しがあり、現場では地域コミュニティが生まれつつあります。

つながり合うことで前を向く人たちが増え、それが町の活気となります。子育て世代においては特につなぎや助けを求める需要は高いものの、十分な供給があるとは言えない現状です。自然と「つい行ってみたくなる」「つい出会ってしまう」「つい関わってしまう」というカウベルタウンの3つの「つい」の仕組みを通して、わざわざ企画を行わなくても自然とつながりが生まれるような日常を作り出し、継続的な価値の提供を現在行っています。その先に、町の課題である人口減少においても、子育て世代の幸福度を上げて、地域を好きになる子供を増やすことからできることがあると考えます。加えて、学力強化のための宿題場所としてもボランティアと事業者に関わっていただき、子どもの成長を支える継続的な環境をカウベルに整えることができます。国が掲げる教育の「主体的で対話的な深い学び」は家庭だけでは難しいものであり、地域に支えられながら自分自身で体験することによって確かに掴む実感から得ることができるものです。掲げたテーマである「やってみたいが育つ町カウベルタウン」のように、やらないままで諦める人よりは、失敗してもやってみようという人と機会を増やすことが大切だと考えています。人口減少の中で最後に残る財産は人です。人と人のコミュニケーションの機会が、全てのはじまりの入口だということを施設として理解して、地域の課題解決の入口となりたいと望んでいます。

もちろんカウベルタウンが課題解決のすべてではありませんが、これは「小さな琴浦モデル」なのです。この動きを助長し全町的な広がりが見られることで町民の生活は心身の豊かさを得ると信じています。カウベルタウンで動いている現実を見過ごすことなくしっかりと受け止め、琴浦町の未来を展望するのは今ではないでしょうか。

4. 事業の総括

(1) 成果と課題

6月14日の祝祭コンサートから6年ぶりに施設利用の始まり、まちおもプロジェクトによる多彩な企画とイベントやネットワークを活用した情報発信等の取組みもあり、短期間ではありましたがトライアル事業において町内外から多くの利用者数の実績があり、活発な動きがありました。多様な企画の実施で、多様なニーズを探ることが出来、現場で様々な声を拾うことができ、多くの課題や対応を発見することもできました。

施設が閉じたままであったなら起きていなかった変化が、施設が開け放たれたことで一気に巻き起こり、人々の行動が広がってきました。今後の利用を望む声は、さらに高まりつつあります。

これは地域住民の主体的アクションの覚醒の前触れとも捉えることができます。

町外からも「琴浦町は盛り上がっていてすごいですね」「地域住民のこの動きを琴浦町はどう対応するのか」と多くの高い関心が琴浦町に寄せられています。

私たちがトライアル事業を通じて得られた多くの成果のうち、主要な成果は次の通りです。

- ① 音楽ホール以外のスペース（現カウベルタウンのスペース）は、町は過去40年間、充分な活用法を知らなかったスペースであり、施錠され一般に開放されていなかったため町民はその存在自体も知りません。利用価値を十分に認められて来なかったスペースについて、その有効活用の方法を示すことが出来、気軽にいつでも自由に使える施設として脚光を浴び、多くの町民が様々な活用をして町に活性化が起き始めていること。
- ② 当法人やまちおもカウベルプロジェクト、多くのボランティアスタッフなど、「町民力」を生かして民間主導による柔軟な施設運営手法が施設の敷居を低くし、入りやすく、使いやすい、魅力的なコンテンツが多数存在する施設としてすでに稼働実績を上げていること。これらの実証実験を町に代わって行ったことで、町は大きな費用負担をかけずに、課題解決の糸口を発見できました。これを土台にして、さらに実績を重ねていくことが可能となりました。
- ③ 町が抱えている多くの課題と解決策を発見することができました。実際に稼働することで見えてくるが多かったのをやってみなくては分からないことばかりでしたが、そのおかげで多くの意見が多く集まり多くの発見がありました。これらから町の発展に寄与できるように、町とさらなる連携を進めるための方向性が見えてきたこと。
- ④ 地元小中学生の施設利用が予想以上に多く、仲間と一緒にカウベルタウンに来て存

分に楽しんだり自習をしたり、一方では発表の場としてステージに立つことでやる気が生まれてきていてこの世代の思いの丈をぶつける機会となり成長の場となっていること。小中高校生が日頃から行く場所がないという課題も新たに発見できました。

カウベルが居場所となり、成長に不可欠な学びと体験をその上に加えていける手応えを感じました。

- ⑤ 多様な企画のもと多様な来場者があり、「カウベル活用の新たな可能性を発見したこと」はトライアル事業において最も重要な成果でした。移住者と町民の架け橋にもなれ、新しい地域コミュニティモデルとして有効な施設となれるだろう確信が得られました。
- ⑥ 子育てファミリーの需要が高いことが分かりました。この町で子育てして仲間ができ、助けが得られてよかった、引っ越してよかった、そして結婚しても子どもを産んでもずっとその気持ちが変わらない町になる、そのためのカウベルタウンになるとよいのでは感じた。これを土台として、さらに多くの人々と共に日常的なにぎわいをつくり、地域の交流の基地となることで、地域活性化のために無くてはならないと誰もが思えるようなコミュニティスペースを構築する必要があることがわかりました。

また、前述のように大きな成果が得られた反面、改善すべき事項もあります。

- ① スタッフ確保の難しさ／年代を問わず多くの人に利用してもらう施設にするためには、開館日と開館時間を多く設定する必要があり、その間はスタッフが常時配置されているが、在籍スタッフが少なくシフトを組むことに毎月苦勞しました。スタッフが少ない理由としては、現在は報酬の支払いが全くできないため、すべてボランティアに頼っているからです。野菜売り場の代金の箱が盗難にあったことなどを受けて、安全面への対策としてもスタッフは常時2～3人以上が必要ということが分かりましたが、ボランティアだけでは今後難しいと感じており、交通費が出る、カフェでのドリンク代が出る、などの特典の用意も費用面とあわせて検討が必要です。
- ② 町民へ周知が不足している／活性化のためにはまずはカウベルに来てもらうことが大切ですが、そのための企画の情報が町民に伝わり切れていませんでした。

その理由は、

- イ. トライアル稼働中であつたことから町発信の広報に載せてもらいにくかつた。

ロ. トライアル稼働中であったことから子育て家庭への学校からの配布ができなかった。

ハ. 費用が無かったため、TCG やテレビや新聞などのマスコミに頼るほかには SNS での発信を行うしか方法が無く、世代によって情報格差が生じたと考えられること。今後の要望としては、町の発信の活用と小中学校へのお便りの配布にも町のご協力をお願いしたい。

トライアル稼働中は、何を行うにしても十分な財源がなく、その分をスタッフの労力に頼ることになったため、大きな負担を与えることとなりました。

(2) 事業全般に関する意見等

6年間利用することができなかった旧カウベルホール、実際に再稼働させると様々な思いを持った町民や特に県中部エリアから多くの人が足を運びました。

ここが、町民の活力を生む地域コミュニティ醸成の場となり、また町外からの来訪者もあり様々な交流と刺激が生まれる場となる事も実感しました。

また、かつてカウベルホールでかつて発表した事があるという人、演奏を聴いた事があるという人達がロビーでの演奏会などで心躍らせている現実を見ると、地域住民にとって「機会」と「場」があることの重要性とその価値を私たちは再認識しました。

特に将来を目指す子どもたちにとって、どんな職業に就くかということに関係なく発表の機会などを通じて人間として一回りも二回りも成長するプロセスは、子どもや若者の将来にとって貴重な財産となると確信します。

カウベルタウンが老若男女問わず成長する場になること、民間の力で魅力ある施設運営を実現し、地域住民にとって欠かすことのできない拠点となること、その拠点で日々にぎわいが生まれること、その使命を果たすのがカウベルタウンだと考えます。

イベントのためだけにカウベルタウンに来た人でもついゆっくりソファに座ってお茶を飲みたくなり、たまたま会った知人と同じ長く話をするというようなコミュニケーションは日常的に開放された今の敷居の低いカウベルタウンだからこそ可能となっているポイントです。商業含めた多目的なコンテンツが一度に提供可能であることと、地域の属性に縛られない広い交流が可能という点が、公民館とは大きく異なります。「つい行ってみたくなる」「つい出会ってしまう」「つい関わってしまう」というカウベルタウンの3つの「つい」を通して、何歳になっても人と人が交

流しながら生き生きと暮らしていけるということを表せたと考えています。おじいちゃんおばあちゃんの元気で明るい背中を若者世代が見る場所にもなりました。

このような自由度の高い施設は琴浦町には存在していませんでしたが、昨今は新設を検討する市町村は全国に多数あり、近隣の成功ケースだけでも境港市のみなとテラス、南部町のキナルなんぶ、北栄町のギャラリーゆら里、八頭町の隼ラボ、岡山県西粟倉村の役場図書館などが地域の活性化のためにこのような仕組みを持つ施設が必要だと考える市町村が増えていることから、琴浦町でも検討が必要と考えます。そのニーズについては、すでに来場者の数が示すとおりです。

トライアル事業を通じて上記の点を確認することができたことは大変有益であったと考えています。加えて、町民から町に対してのアイデアが多数集まり、町への関心と期待が増したという点でも有益であったと言えます。来場者の声の中には、子育て支援員さんのサテライトオフィスでの接点を望む声であったり、町の相談窓口の出張開設を望む声、移住者が空き家を探す声など、行政との気軽な関わりをカウベルタウンに求める声が多々聞かれました。

カウベルタウンは町内外の誰にでも開かれた敷居の低い施設であり、多様な目的（商用利用含む）を果たせ、都合の良い時に気軽に訪問できることは、公民館と大きく異なる点で、地域活性化へ大きな役割を果たすことのできる在り方だと理解しました。

また、トライアル事業で利用者から寄せられた意見や要望、私たち自身が感じているカウベルタウンの課題について次の通り整理しました。

- ① 規模の大きいイベントの際は正面駐車場では足りず、JA 選果場の駐車場は遠距離で高齢者や小さな子どもたちには夜間や雨天の際の移動は危険で厳しいです。
- ② トイレの課題はかねてからのものですが身障者にはづらい施設です。身障者用のトイレの新設と既存の一般トイレの洋式化が不可欠であり来場者からも強い要望があります。
- ③ 施設の老朽化に伴う補修必要箇所の対応が急務です、特に雨漏りによるカビの発生が原因と思われる体調不良を訴えた施設利用者もありました。またロビーをはじめ館内の空調対応も大きな課題です。さらに、点かない蛍光灯も多くあり LED への入れ代えが求められているなど躯体から器具備品までの対応が必要です。
- ④ 民間事業者が運営する施設の運営メリットは柔軟性です、行政施設ではなく一般施設ですから規定等の発効によりそれに縛られることのないよう、来場者の安全性の確保を最優先させながらも民間事業者の裁量が発揮できる施設にしていきたいです。
- ⑤ 私たちは当初から行政からの過大な負担を避けるため、自主的運営を基本的方針としてプラン

を提案してきていました、しかし過分とはどの程度かは明確ではなく手探りの状況でもありません、「行政の負担は少なければ少ないほど良い」ではなく行政として利用者の生命を守るためまた取り組むべき政策(住民へのサービス)としてどこまでの予算化と実質負担が可能なのか、互いの駆け引きではなく明確なスタンスを示し、両者が共有できる将来の施設運営を展望し、またその内容を広く町民に知っていただき理解していただくことが肝要かと思います。

最後に

私たちはすべての町民の皆様、役場の関係者(職員等)にカウベルタウンに少なくとも一度は足を運んでいただき、現場を見て確かめて来場者の表情を見ていただきたいと思います。

それは、この貴重な琴浦町の財産を有効に活用することが、町民にとってどれだけ有益な事かを肌で感じていただきたいからです。

財政が厳しいからと住民サービスを停滞させることなく、適切なコストで住民が活力を得られるような「機会」と「場」をつくるという基本回帰が必要です。

添付資料

- ア. 法人登記簿謄本(履歴事項全部証明書)の写し
- イ. 利用者(参加者)または地域住民に対するアンケートの写し
- ウ. その他事業評価に資する資料